

2025年度事業報告書

1. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称

学校法人 帝京平成大学

②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等

住所：東京都豊島区東池袋2-51-4

電話番号：03-5843-3111（代表）

FAX番号：03-5843-3153

ホームページアドレス：<https://www.thu.ac.jp/>（帝京平成大学）

：<https://www.thu-jpschool.com/>（帝京平成大学附属日本語学校）

(2) 建学の精神

実学の精神を基とし 幅広い知識と 専門分野における実践能力を身につけ
創造力豊かな逞しい 人間愛にあふれた 人材を養成する

(3) 学校法人の沿革

1986年 12月 学校法人帝京技術科学学園設立

1987年 4月 帝京技術科学大学開学

帝京技術科学大学情報学部情報工学科・情報システム学科・経営情報学科開設

1989年 12月 帝京平成短期大学設置認可

1990年 2月 帝京情報技術専門学校設置認可

1990年 4月 帝京平成短期大学開学

帝京平成短期大学看護学科・福祉学科介護福祉専攻、社会福祉専攻開設

帝京情報技術専門学校開校

帝京情報技術専門学校工業専門課程開設

1992年 4月 帝京技術科学大学大学院情報学研究科情報学専攻修士課程開設

1993年 4月 帝京平成短期大学専攻科助産学専攻開設

1994年 4月 帝京技術科学大学情報学部文化情報学科開設

帝京技術科学大学大学院情報学研究科情報学専攻博士後期課程開設

1995年 4月 学校法人帝京技術科学学園を学校法人帝京平成大学へ名称変更

帝京技術科学大学を帝京平成大学へ名称変更

1997年 4月 帝京平成大学情報学部福祉情報学科開設

帝京情報技術専門学校を帝京情報専門学校に名称変更

1998年 4月 帝京情報専門学校を帝京平成大学情報専門学校に名称変更

1999年 4月 帝京平成大学情報学部デジタルビジネス学科開設

帝京平成大学情報学部経営情報学科通信課程開設

2000年 4月 帝京平成大学大学院情報学研究科情報学専攻修士課程（通信制）開設

2001年 4月 帝京平成大学情報専門学校を帝京平成大学専門学校に名称変更

帝京平成大学専門学校医療専門課程開設

帝京平成大学情報学部福祉情報学科社会福祉専攻・介護福祉専攻開設

2002年 4月 帝京平成大学健康メディカル学部理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・臨床心理学科開設

帝京平成短期大学専攻分離廃止により介護福祉学科に名称変更

帝京平成短期大学福祉学科社会福祉専攻募集停止

2003年 3月 帝京平成短期大学福祉学科社会福祉専攻廃止

2003年 4月 帝京平成大学臨床心理センター開設

2004年 4月 帝京平成大学ちはら台キャンパス開設

帝京平成大学薬学部薬学科開設

帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科・身体機能ケア学科トレーナー・整復技術専攻・身体機能ケア学科はり灸専攻開設

帝京平成大学留学生別科開設

帝京平成短期大学介護福祉学科募集停止

2005年 3月 帝京平成短期大学介護福祉学科廃止

2005年 4月 帝京平成大学情報学部情報工学科・情報システム学科・経営情報学科・文化情報学科・福祉情報学科・デジタルビジネス学科・経営情報学科通信教育課程を、現代ライフ学部人間文化学科人間文化専攻・人間文化学科介護福祉専攻・経営マネジメント学科・情報サイエンス学科・経営マネジメント学科通信課程へ改組

- 帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科保育専攻開設
帝京平成大学大学院健康情報科学研究科健康情報科学専攻博士前期課程・博士後期課程開設
帝京平成短期大学を帝京平成看護短期大学に名称変更
- 2006年 4月 帝京平成大学現代ライフ学部児童学科開設
帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学科開設
帝京平成大学薬学部薬学科4年制を6年制へ移行
- 2007年 4月 帝京平成大学大学院健康情報科学研究科臨床心理学専攻博士前期課程・博士後期課程開設
帝京市原接骨院及び帝京市原鍼灸院開設
- 2008年 4月 帝京平成大学池袋キャンパス開設（法人本部を同キャンパスに移転）
帝京平成大学地域医療学部理学療法学科・作業療法学科・柔道整復学科開設
帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科保育専攻（池袋）開設
帝京平成大学大学院健康情報科学研究科を健康科学研究科に名称変更
帝京平成大学臨床心理センター（池袋キャンパス）開設
帝京平成看護短期大学を女子校から男女共学に変更
帝京平成大学専門学校募集停止
- 2008年 6月 帝京池袋接骨院及び帝京池袋鍼灸院開設
- 2009年 4月 帝京平成大学現代ライフ学部レジャービジネス学科開設
帝京平成大学ヒューマンケア学部身体機能ケア学科を柔道整復学科及びはり灸学科に改組
帝京平成大学留学生別科募集停止
帝京平成大学東洋医学研究所開設
帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科介護福祉専攻募集停止
- 2010年 3月 帝京市原鍼灸院廃止
帝京平成大学留学生別科廃止
帝京平成大学専門学校廃止
帝京平成大学情報学部情報工学科廃止
- 2010年 4月 帝京平成大学幕張キャンパス開設
帝京平成大学健康メディカル学部医療科学科開設
帝京平成大学地域医療学部医療スポーツ学科開設
帝京平成大学現代ライフ学部情報サイエンス学科募集停止
帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科保育専攻募集停止
- 2011年 3月 帝京平成大学臨床心理センター（千葉キャンパス）廃止
- 2011年 4月 帝京平成大学大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻専門職学位課程開設
帝京平成大学大学院健康科学研究科臨床心理学専攻博士前期課程募集停止
- 2011年 9月 帝京平成大学情報学部情報システム学科廃止
- 2011年 10月 帝京平成大学医学教育センター開設
- 2011年 11月 帝京平成大学臨床心理センター（帝京大学板橋キャンパス）開設
- 2012年 3月 帝京平成大学大学院健康科学研究科臨床心理学専攻博士前期課程廃止
帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科介護福祉専攻廃止
- 2012年 4月 帝京平成大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程開設
帝京平成大学大学院健康科学研究科健康栄養学専攻修士課程・理学療法学専攻修士課程・作業療法学専攻修士課程・はり灸学専攻修士課程・柔道整復学専攻修士課程開設
帝京池袋鍼灸臨床センター開設
帝京平成看護短期大学専攻科助産学専攻募集停止
- 2013年 3月 帝京平成大学情報学部福祉情報学科・デジタルビジネス学科廃止
帝京平成看護短期大学専攻科助産学専攻廃止
- 2013年 4月 帝京平成大学中野キャンパス開設
帝京平成大学地域医療学部看護学科開設
帝京平成大学助産別科開設
帝京平成大学教職センター開設
帝京平成大学ヒューマンケア学部はり灸学科を鍼灸学科に名称変更
帝京平成大学大学院情報学研究科情報学専攻修士・博士課程を環境情報学研究科環境情報学専攻修士・博士課程へ名称変更
帝京平成大学大学院情報学研究科情報学専攻修士課程（通信制）を環境情報学研究科環境情報学専攻修士課程（通信制）へ名称変更
帝京平成大学現代ライフ学部レジャービジネス学科を観光経営学科へ改組
帝京平成看護短期大学看護学科募集停止
帝京平成大学現代ライフ学部人間文化学科保育専攻（池袋）を児童学科に改組

- 帝京平成大学先端技術開発センター開設
- 2013年 5月 帝京平成大学情報学部文化情報学科廃止
- 2014年 4月 帝京平成大学大学院健康科学研究科言語聴覚学専攻修士課程、病院前救急医療学専攻修士課程開設
帝京平成大学大学院健康科学研究科健康科学専攻修士課程募集停止
- 2015年 5月 帝京平成大学ヒューマンケア学部身体機能ケア学科廃止
- 2016年 3月 帝京平成看護短期大学廃止
帝京平成大学現代ライフ学部情報サイエンス学科廃止
- 2017年 3月 帝京平成大学情報学部経営情報学科廃止
帝京平成大学情報学部経営情報学科通信教育課程廃止
帝京平成大学情報学部廃止
帝京平成大学幕張キャンパス閉鎖
- 2017年 4月 帝京平成大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程開設
帝京平成大学地域医療学部を健康医療スポーツ学部に変更
帝京平成大学大学院健康科学研究科はり灸学専攻修士課程を鍼灸学専攻修士課程に変更
- 2018年 4月 帝京平成大学国際交流センター開設
- 2018年 5月 帝京平成大学現代ライフ学部レジャービジネス学科廃止
- 2019年 4月 帝京平成大学教育開発・学修支援機構開設
帝京平成大学スポーツ局開設
帝京平成大学先端技術開発センターを帝京平成大学先端技術開発研究所に変更
- 2019年 10月 帝京平成大学附属日本語学校開校
- 2019年 12月 帝京サンシャイン前接骨院開設
- 2020年 4月 帝京平成大学現代ライフ学部経営マネジメント学科、経営マネジメント学科（通信教育課程）
を経営学科、経営学科（通信教育課程）に変更
- 2021年 4月 帝京平成大学健康医療スポーツ学部理学療法学科、作業療法学科をリハビリテーション学科理学療法
学専攻、作業療法学専攻に改組
帝京平成大学IRセンター開設
- 2022年 4月 帝京平成大学現代ライフ学部を人文社会学部に変更
帝京平成大学健康メディカル学部臨床心理学科を心理学科に変更
- 2023年 4月 帝京平成大学大学院看護学研究科看護学専攻博士課程開設
- 2024年 3月 帝京平成大学シミュレーション教育研究センター開設
- 2024年 4月 帝京平成大学アニマルケアセンター開設
- 2025年 4月 帝京平成大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻修士・博士課程を情報科学研究科情報科学
専攻修士・博士課程に変更
帝京平成大学大学院環境情報学研究科環境情報学専攻修士課程（通信制）を情報科学研究科情報科学
専攻修士課程（通信制）に変更

(4) 設置する学校・学部・学科等および学生数の状況

(2025年5月1日現在)

学校・学部・学科等名	入学定員	現員数
帝京平成大学	2,878	10,196
人文社会学部	923	3,378
人間文化学科	190	659
経営学科	415	1,770
児童学科	200	544
観光経営学科	118	405
健康メディカル学部	593	2,140
理学療法学科	100	448
作業療法学科	60	189
言語聴覚学科	60	157
心理学科	116	371
健康栄養学科	77	283
医療科学科	180	692
ヒューマンケア学部	337	1,267
看護学科	129	496
柔道整復学科	119	467
鍼灸学科	89	304
薬学部 薬学科	200	1,140
健康医療スポーツ学部	585	1,951
リハビリテーション学科	120	381
柔道整復学科	60	263
医療スポーツ学科	270	865
看護学科	135	442
助産別科	20	22
人文社会学部経営学科(通信教育課程)	220	298
帝京平成大学附属日本語学校	100	68
進学課程	100	68
1年6か月コース	40	9
2年0か月コース	60	59

※但し、大学院の学生および募集停止の学部、学科の現状の学生数は含まない。

入学定員には編入定員を含まない。

(5) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	2023年度	2024年度	2025年度
帝京平成大学	97.3%	92.7%	89.9%
帝京平成大学附属日本語学校	64.0%	81.0%	68.0%

※但し、大学院の学生および募集停止の学部、学科の現状の学生数は含まない。

(6) 役員・評議員の概要

(2026年6月17日現在)

定員数 理事6名、監事2名

区分	氏名
理事長	冲永 佳史
副理事長	冲永 寛子
理事	坂本 哲也
理事	安西 偕二郎
理事	小柳 健一
理事	和泉 孝志
監事	菊池 恵美子
監事	上野 誠一

(2026年6月17日現在)

定員数 7~11名

区分	氏名
評議員	斧 康雄
評議員	藤川 健一
評議員	江川 絢子
評議員	平池 春子
評議員	今関 雅夫
評議員	山本 通子
評議員	岩出 雅之

(7) 会計監査人の概要

定員数	名称	就任年月日
1	SK東京監査法人	2025年5月30日

(8) 理事選任機関の概要

理事選任機関は評議員会とし、構成員は全ての評議員とする。

(9) 教職員の概要

(2025年5月1日現在)

学校名	学長・校長	所在	教員(本務)	教員(兼務)	職員(本務)	職員(兼務)
帝京平成大学	冲永 寛子	東京都豊島区東池袋2-51-4	528	104	212	18
帝京平成大学附属日本語学校	内田 俊也	東京都豊島区東池袋4-26-10	3	5	4	0

平均年齢は、教員52.8才、職員37.7才である。

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

人文社会学部 三つの方針（ポリシー）		
卒業認定・学位授与の方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）	入学者受入れの方針 （アドミッション・ポリシー）
<p>人材育成目標（卒業生が身につけるべき資質・能力） 人文社会学部は、建学の精神及び大学の目的に則り、社会のさまざまな分野で活躍できる人材を養成する。 所定の授業科目および単位を修得のうえ、下記の到達目標に示された能力を有すると認められる者に、学士（人間文化学・経営学・児童学）の学位を授与する。</p> <p>プログラムの到達目標（目標としての学修成果）</p> <p>1. 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身につけている。 現代社会の諸課題を的確に把握することができる。 語学力、情報処理能力、コミュニケーション能力を有している。 <p>2. 当該分野固有の能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 各学科の教育課程において基礎的な知識と技能を身につけている。 各学科の教育課程において身につけた専門的な知識と技術を活かすことができる。 持続可能性を追求する社会で、プロフェSSIONナルとして活躍する力を有している。 <p>3. 汎用的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 現代社会の諸課題に対し、対処法を見出す能力を有している。 修得した能力を多様化する社会において適切に活用することができる。 物事を論理的・客観的に考察する能力を有している。 豊かな創造力と実践能力を有している。 <p>4. 態度・姿勢</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間愛に基づく公共的使命感や倫理観・責任感を有している。 社会の発展に自立的・主体的に寄与する意欲と能力を有している。 	<p>カリキュラム編成 人文社会学部は、「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの枠組みでカリキュラムを構成する。 「教養科目」では、基礎学力や教養知識の向上を目指す。 「専門基礎科目」では、専門領域を学ぶ上で必要な知識・技術を修得する。 「専門科目」では、専門知識と実践力を修得する。 資格取得に必要な科目は、4年間で系統的に配置する。</p> <p>学修内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 現代社会の諸課題の解決に役立つ幅広い知識と教養を身につけるための科目を配置する。 語学、情報処理、コミュニケーションなどの基本的な能力を身につけるための科目を配置する。 各専門分野の学びの出発点となる基礎的な知識と技能を身につけるための科目を配置する。 現代社会の実践の場で求められる専門的な知識および行動力を身につけるための科目を配置する。 実習、現場体験、ボランティア活動などをおして、高い倫理観と強い責任感を身につけるための科目を配置する。 <p>学修成果の評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 知識・理解にかかわる授業科目の最終的な評価は客観試験を基本とするが、科目の特性に応じて課題、授業中の小テスト、レポート、学修態度等、様々な評価形態を取り入れ、多角的に学修成果を評価する。 e-ポートフォリオを導入し、学修成果を可視化し、セミナーにて学修目標の設定や振り返りを行い、学修成果を自己管理できるようにする。 セミナー科目はルーブリック評価等を用いることで、教員と学生間で評価基準を共有し、学修状況を分析的に評価する。 ディプロマポリシーへの到達状況の把握は、各授業科目における寄与度を設定して1年次から4年次まで形成的評価を繰り返すことにより行い、それにより自己の学修成果と課題が明確になるようにする。 	<p>求める学生像 人文社会学部は、次のような入学者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養を身につけ、現代社会の諸課題に立ち向かっているという強い意欲を抱いている人 専門知識を積極的に身につけたいという意欲を抱いている人 知識と技能だけではなく、現代社会でそれを活用していくための実践能力を身につけたいという意欲を抱いている人 倫理観と責任感をもって、社会に貢献していきたいという意欲を抱いている人 <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>1. 総合型選抜 基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、志望理由書、活動報告書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>2. 学校推薦型選抜（公募制） 基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、推薦書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>3. 一般選抜 学力試験により、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>4. 大学入学共通テスト利用選抜 大学入学共通テストにより、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p>

健康メディカル学部 三つの方針（ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
<p>健康メディカル学部は、建学の精神に則り、医療・福祉・保健・スポーツなどの専門分野で活躍できる以下の知識・能力・態度を有するに至った者に学位を授与する。</p> <p>学士（理学療法学・作業療法学・言語聴覚学・心理学・栄養学・健康科学）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会人として自立（律）できる力を有している。 ② 幅広い教養とコミュニケーション能力を有している。 ③ 各専門分野における知識と技術および態度を身につけている。 ④ 人間愛に基づき社会に貢献できる力を有している。 	<p>健康メディカル学部は、建学の精神と卒業認定・学位授与の方針に掲げた目的を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全学共通科目(必修)として、フレッシュセミナー、アドバンスセミナー、英語、および情報リテラシー演習・DS 概論を開講し、社会人として自立（律）できる力、幅広い教養とコミュニケーション能力、社会に貢献できる力を養成する。 ② 教養教育科目（選択必修および選択）として、卒業認定・学位授与の方針のすべてと関連する幅広い科目を配置する。 ③ 専門科目を学ぶ上で基礎となる専門基礎科目は、学修の順序性を考慮し、学年に応じて配置する。 ④ 専門科目を、学科・コースに応じた国家試験受験資格取得、または認定資格取得のためのカリキュラムとして配置する。 ⑤ その他の資格を取得する場合に必要な科目は、4年間にわたり系統的に配置する。 	<p>健康メディカル学部は、学部・学科・コースの教育目的を達成するため、以下のような入学者を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 入学後の学修に必要な基礎学力（知識・理解力・実践力）を有している。 ② 物事を多面的かつ論理的に考えようとする姿勢を有している。 ③ 自分の考えを文書や口頭で表現し伝える努力ができる。 ④ 積極的に他者と関わり、コミュニケーションしようとする熱意を有している。 ⑤ 文化、社会、人間、および医療・福祉・保健・スポーツに関心を持ち、社会に貢献する意欲がある。

ヒューマンケア学部 三つの方針（ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)												
<p>人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）</p> <p>ヒューマンケア学部では、建学の精神及び大学の目的に則り、豊かな人間性と高い倫理観を備え、医療にかかわる幅広い知識・技能を修得し、専門領域や地域社会に関する課題を解決する能力を備え、医療・保健・福祉などの分野で活躍することのできる人材を育成する。</p> <p>所定の授業科目および単位を修得のうえ、下記の到達目標に示された能力を有すると認められる者に、学士(保健科学)もしくは学士(看護学)の学位を授与する。</p> <p>プログラムの到達目標（目標としての学修成果）</p> <p>1. 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会人としての幅広い教養を修得している。 ② 人体の構造や機能、病態、治療にかかわる基礎的な知識を修得している。 ③ 専門領域の理論を学び、その基盤となる知識を修得している。 ④ 専門領域についての体系的な知識と技能・態度を修得している。 ⑤ 医療・保健・福祉に関する健康支援や社会保障制度の基礎的な知識を修得している。 ⑥ 専門領域の探求のための研究方法や計画立案・実施評価にかかる一連の過程を理解している。 <p>2. 当該分野固有の能力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対象の人權を尊重した上で適切な治療の実践ができる。 ② 科学的根拠に基づく治療計画を立案し、その成果を評価できる。 ③ 地域、病院、施設等の多様な場における医療分野のさまざまな課題を発見し、解決する能力を備えている。 <p>3. 汎用的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自ら問題を見つけ、様々な知識や手段を駆使して対策を立案し、解決のための行動がとれる。 ② 社会人としてのコミュニケーション能力を修得している。 ③ 学修や社会生活を送るうえでのルールやマナーを守り、規律ある行動がとれる。 <p>4. 態度・姿勢</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学修や課題に対し、主体的、客観的、創造的に取り組む姿勢を備えている。 ② 医療専門職としての自覚をもち、専門領域を探求し続ける姿勢を備えている。 ③ 生涯にわたり知識や能力を高めてゆく意欲を備えている。 	<p>カリキュラム編成</p> <p>カリキュラムは「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの枠組みで構成されている。主に1～2年次に学修する「教養科目」は、幅広い知識と教養、豊かな人間性や倫理観を身につけるための基盤となる人文・社会・科学・語学系の科目からなる。</p> <p>専門領域を修めるために必要な「専門基礎科目」および「専門科目」を、段階的かつ体系的に全学年に配置する。</p> <p>「専門基礎科目」は、専門領域を学ぶための基盤となる科目で、基礎医学、臨床医学、関係法規等の科目も含まれる。</p> <p>「専門科目」には、講義科目、演習科目、実習科目が配置されている。</p> <p>卒業研究を配置し、問題発見・解決能力、研究内容を論理的にまとめる能力、発表する能力、コミュニケーション能力などを醸成している。</p> <p>国家試験の受験資格に係る科目は必修としている。</p> <p>学修内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業の方法は、講義、実習、グループ学習によるアクティブラーニング形式の演習があり、学修内容に適した授業形態を組み合わせて実施する。 ② 「教養科目」では、人間、生活、社会の理解を深め、科学的な思考の基盤となる知識を学び、豊かな人間性や倫理観、社会人としての教養を身につけていく。 ③ 「教養科目」の中のセミナー科目は本学共通の必修科目で、1年次～4年次まで少人数クラスでの担任制により実施し、幅広い教養、常識、マナー等を身につけ、医療専門職をめざす大学生として学業や学生生活の定着からライセンスの取得、将来のキャリア設計まで、多岐にわたる学修を積み重ねていく。 ④ 「専門基礎科目」では、人体の構造と機能、疾病や障害の病態や治療、健康支援や社会保障制度に関連する科目など、科学的根拠に基づいた専門領域が展開できるための基盤となる知識を修得する。 ⑤ 「専門科目」やセミナー科目での講義、演習、実習を通して、医療専門職としての思考力・倫理的判断力・問題解決力・コミュニケーション能力を醸成していく。 ⑥ 卒業研究は、希望する専門領域での少人数ゼミ形式で行い、研究計画から発表まで一貫した指導により、専門領域内の新たな課題を発見・解決する力を学修する。 <p>学修成果の評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 知識・理解にかかわる授業科目の最終的な評価は客観試験を基本とするが、科目の特性に応じて課題、授業中の小テスト、レポート、学習態度等、様々な評価形態を取り入れ、多角的に学修成果を評価する。 ② e-ポートフォリオを導入し、学習成果を可視化し、セミナーにて学修目標の設定や振り返りを行い、学修成果を自己管理できるようにする。 ③ セミナー科目はルーブリック評価を用いることで、教員と学生間で評価基準を共有し、学修状況を分析的に評価する。 ④ ディプロマポリシーへの到達状況の把握は、各授業科目における寄与度を設定して1年次から4年次まで形成的評価を繰り返すことにより行い、それにより自己の学修成果と課題が明確になるようにする。 	<p>求める学生像</p> <p>ヒューマンケア学部では、次のような学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会や健康に広い関心を持ち、修学に必要な基礎学力を有している人 ② 保健医療関連の科目について、基礎的知識および技能を身につける意志を有している人 ③ 豊かな人間性、他者に対する優しさや協調性、コミュニケーション能力の重要性を認識している人 <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有していることに加え、専門領域を学ぶ高い意欲と適性を持つ人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国語・英語・数学・生物・化学より2科目選択の筆記試験を行う。ただし、看護学科では国語と英語の組み合わせは不可とする。英語は「外部試験」の基準スコア以上の合格証明書のコピーを提出した場合は優遇制度を適用する。 ② 面接により、志望動機、主体的な学習意欲、思考力、判断力、表現力、協調性等を評価する。 ③ 基礎学力や医療職としての適性を判断する資料として調査書、志望理由の書類審査を行う。 <p>学校推薦型選抜/公募制</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有していることに加え、専門領域を学ぶ高い意欲と適性を持つ人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国語・英語・数学より1科目選択の筆記試験を行う。英語は「外部試験」の基準スコア以上の合格証明書のコピーを提出した場合は優遇制度を適用する。 ② 面接により、志望動機、主体的な学習意欲、思考力、判断力、表現力、協調性等を評価する。 ③ 基礎学力や医療職としての適性を判断する資料として調査書、推薦書の書類審査を行う。 <p>一般選抜</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有していることに加え、専門領域を学ぶ高い意欲と適性を持つ人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国語・英語・数学・生物・化学より2科目選択の筆記試験を行う。ただし、看護学科では国語と英語の組み合わせは不可とする。英語は「外部試験」の基準スコア以上の合格証明書のコピーを提出した場合は優遇制度を適用する。 ② 面接により、志望動機、主体的な学習意欲、思考力、判断力、表現力、協調性等を評価する。 ③ 基礎学力や医療職としての適性を判断する資料として調査書の書類審査を行う。 <p>大学入学共通テスト利用選抜</p> <p>各学科での学修に必要な基礎学力を有している人を選抜する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 指定する2科目の成績により判定する。 ② 指定科目数以上受験した場合には、高得点の2科目を合否判定に使用する。 ③ 外国語の「英語」ではリーディング(100点)とリスニング(100点)の配点を「4:1」の比率として、100点満点で換算する。 <p>※大学入学共通テスト利用選抜以外の出願基準での筆記試験の科目の出題範囲</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">科目</th> <th style="width: 80%;">出題範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>現代の国語、言語文化(古文・漢文除く)</td> </tr> <tr> <td>英語</td> <td>英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>数Ⅰ、数A(図形の性質、場合の数と確率)</td> </tr> <tr> <td>生物</td> <td>生物基礎・生物</td> </tr> <tr> <td>化学</td> <td>化学基礎・化学</td> </tr> </tbody> </table>	科目	出題範囲	国語	現代の国語、言語文化(古文・漢文除く)	英語	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ	数学	数Ⅰ、数A(図形の性質、場合の数と確率)	生物	生物基礎・生物	化学	化学基礎・化学
科目	出題範囲													
国語	現代の国語、言語文化(古文・漢文除く)													
英語	英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、論理・表現Ⅰ													
数学	数Ⅰ、数A(図形の性質、場合の数と確率)													
生物	生物基礎・生物													
化学	化学基礎・化学													

薬学部 薬学科 三つの方針（ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）	入学者受入れの方針 （アドミッション・ポリシー）
<p>人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）</p> <p>薬学部薬学科では、建学の精神及び大学の目的に則り、豊かな人間性と高い倫理観を備え、薬学にかかわる幅広い知識・技能を修得し、健康に係る問題を解決するため、患者・生活者中心という視点から、薬物療法の専門職として連携・協働できる人材を育成する。</p> <p>所定の授業科目および 192 単位以上を修得した者で、下記プログラムの到達目標に示された能力を有すると認められた者に、学士（薬学）の学位を授与する。</p> <p>プログラムの到達目標（目標としての学修成果）</p> <p>1. 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自然並びに人間社会・文化に対する理解を深めている。 ② 医療や健康の維持増進に必要な基礎薬学の知識を修得している。 ③ 薬物治療に必要な医療薬学の知識を修得している。 ④ 健康の維持増進に必要な衛生薬学の知識を修得している。 ⑤ 医療の実践に必要な臨床薬学の知識を修得している。 ⑥ 医療・介護・福祉に関する倫理や法制度を理解している。 ⑦ 情報・科学技術に関する倫理や法制度を理解している。 <p>2. 当該分野固有の能力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 代表的な症例を解析し、評価するとともに、問題点を挙げ適切な薬物治療を提案できる。 ② 調剤、医薬品情報の収集及び服薬指導を実践できる。 ③ 薬学的知見に基づいて、地域住民の健康を支援することができる。 ④ セルフメディケーションを支援することができる。 <p>3. 汎用的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自ら様々な問題を発見し、専門的知識や調査・研究技術を駆使して分析、考察した上で、問題解決の手段を提案できる。 ② 他者の主張を理解することに努め、自分の考えを論理的に説明することや発表することができる。 ③ 日本語による論理的な記述ができる。 ④ 英文資料を活用できる。 <p>4. 態度・姿勢</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生涯にわたって情報収集や研鑽を継続し、最良の薬物治療や地域住民の健康の維持増進に貢献する姿勢を備えている。 ② 医療人として必要とされる責任感と高い倫理観を有し、地域住民の健康に貢献する態度を備えている。 ③ 患者や医療スタッフと適切なコミュニケーションを取り、多職種連携を実践する姿勢を備えている。 ④ 常に患者の QOL 向上を意識する姿勢を備えている。 ⑤ 薬物治療において、有効性の判断や、重篤な副作用を回避するために、自ら患者の状態や検査を経時的に評価する姿勢を有している。 	<p>カリキュラム編成</p> <p>薬学部薬学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に適合した人材を育成するために、教養系科目、語学科目、薬学専門科目、演習科目、実習科目、薬学研究を順次性に配慮して体系的にカリキュラムを編成する。1 年前期には薬学準備教育を配置して、1 年後期からの薬学専門科目を無理なく学修することができるように配慮している。また、薬学専門領域の知識・理解の修得に合わせて症例解析演習などの演習科目を配置し、修得した知識・理解を活用できる能力を醸成していく。さらに、1 年次から各学年にセミナー科目を配置し、関連科目と合わせて薬剤師としての人間性・社会性を育むとともに、医療現場や地域における薬剤師の活動の基盤を修得していく。セミナー科目では、同時に傾聴、自分の考えを説明する能力、発表する能力、コミュニケーション能力なども醸成していく。1 年次から各学年には薬学研究も配置し、問題発見・解決能力、研究内容を論理的にまとめる能力、発表する能力、コミュニケーション能力などを醸成する。</p> <p>学修内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自然・人間社会・文化への広い視野と理解を深めるために、一般教養系科目を配置する。 ② 薬学専門科目へと無理なく学修を進めることができるように、1 年前期に薬学準備教育を配置する。 ③ 確かな専門知識と技能を修得するために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。 ④ 医療・介護・福祉に関する倫理や法制度の理解を深めるために、授業科目を配置する。 ⑤ 先端技術、情報・科学技術に関する倫理や法制度の理解を深めるために、授業科目を配置する。 ⑥ コミュニケーション能力を身に付けるために、演習科目や実習科目を配置する。 ⑦ 健康の維持増進に貢献する能力を身に付けるために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。 ⑧ 多職種連携を実践する能力や薬物治療の実践的能力を身に付けるために、講義科目に加えて、演習科目や実習科目を配置する。 ⑨ 地域医療の重要性を理解するために、講義科目に加えて、演習科目を配置する。 ⑩ 生涯にわたって情報収集や研鑽をする習慣を身に付け、かつ自ら様々な問題を発見し、調査・分析して問題解決の手段を提案できる能力を醸成するために、1 年次からすべての学年に薬学研究を配置する。 ⑪ 演習科目、実習科目及び薬学研究以外の知識・理解を深めるための科目は、主に講義形式で行う。 ⑫ 主体性、姿勢、傾聴力、協働性を醸成する演習科目は、自己学習や少人数の討論に発表を組み合わせた能動学習で行う。 <p>学修成果の評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 知識・理解の評価は、主に筆記試験により行う。 ② 当該分野固有の能力に関しては、筆記試験、観察評価、技能評価により行う。 ③ 汎用的能力に関しては、観察評価、技能評価により行う。 ④ 態度・姿勢に関しては、観察評価、技能評価により行う。 ⑤ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の達成度は、各科目の寄与度を設定し、1 年次より総合的に評価する。 	<p>求める学生像</p> <p>薬学部薬学科では、次のような学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 薬学を学修するために必要となる基礎的・基本的な学力を身につけている人 ② 多様な人々と協働して学ぶ姿勢を有している人 ③ 良き医療人になるための意欲と行動力を有している人 ④ 薬学の専門的知識の修得及び多様な知識の修得を目指す意欲と、医療・薬学における様々な問題を解決するための科学的探究心を有している人 <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>【求める学生像】に示した知識・能力等を備えているかどうかを判定するために、「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力など」、「主体性、多様性、協働性」を以下のような選抜方法において評価する。</p> <p>総合型選抜 I 期・II 期</p> <p>基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、志望理由書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>学校推薦型選抜／公募制</p> <p>基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、推薦書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>一般選抜</p> <p>学力試験により、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>大学入学共通テスト利用選抜</p> <p>大学入学共通テストにより、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p>

健康医療スポーツ学部 三つの方針（ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)	入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)
<p>人材育成目標（卒業生が身につけるべき資質・能力）</p> <p>健康医療スポーツ学部は、建学の精神及び学部目的に則り、幅広い視野に立った教養を基礎とし、「健康・医療・スポーツ」分野における専門的な知識と実践的な技能を身につけ、指導者として地域の健康づくりを推進できる人材を育成する。</p> <p>所定の授業科目および単位を修得のうえ、下記の到達目標に示された能力を有すると認められる者に、学士（理学療法学・作業療法学・リハビリテーション学・柔道整復学・保健科学・看護学）の学位を授与する</p> <p>プログラムの到達目標（目標としての学修成果）</p> <p>1. 知識・理解</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 幅広い視野に立った教養を修得している。 ② 各専門領域の理論と基礎的な知識を修得している。 ③ 地域の多様性に対応するための社会、文化とその背景を理解している。 <p>2. 当該分野固有の能力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各専門領域で必要となる技能を修得し、これらを実践的に活用できる。 ② 健康に関する情報を収集・分析して、課題を発見し解決することができる。 ③ 社会や障がいのある人に対して、「健康・医療・スポーツ」を介して地域に貢献することができる。 <p>3. 汎用的能力</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一般常識を大切に考えた社会生活を送ることができる。 ② 異なる背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとることができる。 ③ 多角的な視点から課題にアプローチし、自らの考えをまとめ、他者にプレゼンテーションすることができる。 <p>4. 態度・姿勢</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 健康管理・医療・スポーツなどを介して社会に積極的に貢献する姿勢を有している。 ② 各専門領域での研究や実践において、法令を遵守し、倫理的な視点をもって行動する姿勢を有している。 ③ 生涯にわたって、各専門領域の知識・技能を高め、専門性を探求する姿勢を有している。 	<p>カリキュラム編成</p> <p>健康医療スポーツ学部は、「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの枠組みでカリキュラムを構成する。主に1～2年次で学修する「教養科目」には、幅広い知識と教養、高い倫理性を身につけ、社会に貢献しようとする姿勢を育成するための科目を配置する。「専門基礎科目」には、健康・医療・スポーツ分野における理論と基礎的な知識や技能を修得するための講義科目・演習科目・実習科目を段階的・体系的に配置する。「専門科目」には、より専門性の高い知識や実践的な技能を修得するための科目を配置する。1年次から4年次にかけて配置するセミナー科目では、リベラルアーツ教育を段階的に行う。</p> <p>学修内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① セミナー科目では、学年進行に合わせながら経時的に1年次から4年次までリベラルアーツ教育を行う。具体的には、1～2年次に大学生活や社会生活への順応と、コミュニケーション能力の向上を目指し、3～4年次に卒業後の社会生活に対応した責任感、倫理観、自己管理能力を身につける。 ② 「実学」を基本とした学内実習や臨床実習を取り入れながら、学部のモットーである「健康・医療・スポーツ」を三本柱として、地域に密着した医療職を養成する科目を配置する。 ③ 専門職として自覚を高めるために、入学後早期から理学療法学、作業療法学、柔道整復学、医療スポーツ学、障がい者スポーツ学、救急救命医療学、動物医療学、看護学などの各専門分野に関わる科目を配置する。 ④ 地域社会における「健康・医療・スポーツ」の実践に資する専門科目を適切に配置し、ステップアップしながら専門性を高めていく。 <p>学修成果の評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 知識・理解にかかわる授業科目の最終的な評価は客観試験を基本とするが、科目の特性に応じて課題、授業中の小テスト、レポート、学修態度等、様々な評価形態を取り入れ、多角的に学修成果を評価する。 ② e-ポートフォリオを導入し、学修成果を可視化し、セミナーにて学修目標の設定や振り返りを行い、学修成果を自己管理できるようにする。 ③ セミナー科目はルーブリック評価を用いることで、教員と学生間で評価基準を共有し、学修状況を分析的に評価する。 ④ ディプロマ・ポリシーへの到達状況の把握は、各授業科目における寄与度を設定して1年次から4年次まで形成的評価を繰り返すことにより行い、それにより自己の学修成果と課題が明確になるようにする。 	<p>求める学生像</p> <p>健康医療スポーツ学部は、次のような学生を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 健康・医療・スポーツ分野の関連科目を修得できる十分な基礎学力を有している人 ② 専門職としての意識を育み、チームワークを大切に考え社会性のある行動を取ることができる人 ③ 地域における総合的な健康づくりの推進力となり、将来的に指導者となろうとする向上心を持って努力する能力を有している人 ④ 障がいのある人と関わる医療職の専門家として、弱者に対する協調性、理解力、優しさ、コミュニケーションの重要性を認識し、行動できる社会貢献能力を有している人 <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>1. 総合型選抜</p> <p>基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、志望理由書、活動報告書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>2. 学校推薦型選抜（公募制）</p> <p>基礎能力検査により、基礎学力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書、推薦書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>3. 一般選抜</p> <p>学力試験により、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。個別面接により、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p> <p>4. 大学入学共通テスト利用選抜</p> <p>大学入学共通テストにより、基礎学力および思考力、判断力、表現力を評価する。これらと調査書および英語外部試験成績を総合して評価する。</p>

助産別科 三つの方針（ポリシー）		
卒業認定・学位授与の方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程編成・実施の方針 （カリキュラム・ポリシー）	入学者受入れの方針 （アドミッション・ポリシー）
<p>人材育成目標（卒業生が身につけるべき資質・能力）</p> <p>助産別科は、建学の精神及び別科の目的に則り、豊かな人間性と柔軟なものの考え方ができ、人の一生を通じて性と生殖をめぐる健康問題に全人的な支援を行い、新しい生命の誕生に確かな技術と真心で応えることのできる助産師を養成する。</p> <p>所定の教育課程を履修のうえ、下記の到達目標に示された能力を有すると認められる者に、修了証書を授与する。</p> <p>プログラムの到達目標（目標としての学修成果）</p> <p>1. 知識・理解</p> <p>① 助産学の基本概念について理解している。</p> <p>② 助産師の役割について理解している。</p> <p>③ 看護基礎教育を基盤に健康科学、看護実践、法律や倫理の原則を理解している。</p> <p>④ 助産ケアに関する実践的な知識、技術を有している。</p> <p>2. 当該分野固有の能力</p> <p>① 人の一生における性と生殖をめぐる健康問題について、援助活動ができる能力を有している。</p> <p>② 妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康水準を診断することができる。③妊娠・分娩・産褥・新生児期が自然で安全に経過できるよう援助できる能力を有している。</p> <p>3. 汎用的能力</p> <p>① 自ら問題を見つけ、解決策を立案し、問題を解決することができる。</p> <p>② 対象に合わせた方法を用いて有効なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>4. 態度・姿勢</p> <p>① 多職種と意思疎通を図り、連携する態度を備えている。</p> <p>② 安心して子どもを産み育てるために、個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整できる能力を有している。</p> <p>③ 助産専門職業人として、生涯にわたり、自己の向上に努めることができる。</p> <p>④ 対象者の権利を尊重し、個人情報を守ることができる。</p>	<p>カリキュラム編成</p> <p>助産別科は、医学的な知識を産婦人科医や小児科医が教授し、助産ケアに関する実践的な知識、技術を助産師が教授することで、より臨床に近いカリキュラムを編成する。</p> <p>1年間で助産師教育課程を学ぶ。</p> <p>学修内容・方法</p> <p>① 助産師に必要な知識、技術、態度を身につけ、広い視野を持って行動できる実践能力を養成する。</p> <p>② 人の生涯を通じて性と生殖をめぐる健康問題について全人的な支援ができる能力を養成する。</p> <p>③ 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断と技術を修得し、援助ができる能力を養成する。</p> <p>④ 地域母子保健活動を実践できる能力を養成する。</p> <p>⑤ 生涯を通じて自己研鑽ができる態度を身につける。</p> <p>⑥ 助産別科として様々な場面において主体的に取り組むことを促し、助産学の科学的思考、探求していく能力を養うために助産学研究を年間に渡り学ぶ。</p> <p>学修成果の評価方法</p> <p>① 知識・理解にかかわる授業科目の最終的な評価は客観試験を基本とするが、科目の特性に応じて課題、授業中の小テスト、レポート、学修態度等、様々な評価形態を取り入れ、多角的に学修成果を評価する。</p> <p>② 助産学実習では、臨地におけるアセスメント力の強化と知識・技術の統合が中心となる。講義・演習において、紙上事例に基づきアセスメント力を洗練させた上で、臨地実習で知識と技術の統合を図り、より専門的な問題解決能力を育成するためにパフォーマンス評価を取り入れて学修成果を評価する。</p>	<p>求める学生像</p> <p>助産別科は、次のような学生を求める。</p> <p>① 助産師教育を学ぶ明確な動機と、強い意志を有している人</p> <p>② 助産師教育を学ぶにふさわしい基礎学力を身につけている人</p> <p>③ 生命尊重を重んじ、人間を深く理解しようとする姿勢を有している人</p> <p>④ 知的好奇心と探究心を備え、自ら主体的に学ぶようとする意欲を有している人</p> <p>⑤ 豊かな心を持ち、協調性があり他者とコミュニケーションを取ろうとする姿勢を有している人</p> <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>筆記試験・面接・書類審査を実施し、総合的に判定する。</p>

*上の表は学部、別科の「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」である。学部内各学科、また大学院各研究科の各方針は別途定めている。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

本学では、2016年度から2020年度までを実施期間とする第1期中長期計画において、「①教育・学生支援に関する計画」「②研究に関する計画」「③社会貢献の推進」「④大学運営組織の改革」「⑤国際化の推進」「⑥入試制度改革」の6分野を設定し、計画的な取組を推進してきた。これらの履行状況については、第1期計画の最終年度である2020年度に自己点検・評価を実施した。

この自己点検・評価の結果を踏まえ、2021年度から2025年度までの5年間を実施期間とする第2期中長期計画を策定した。第2期中長期計画では、第1期の内容を整理・更新し、「①教育に関する計画」「②学生支援に関する計画」「③研究に関する計画」「④社会貢献の推進」「⑤運営組織の改革」「⑥国際化の推進」「⑦入試制度の改革」の7分野を設定し、それぞれに目標と計画を体系的に編成している。

さらに、第2期中長期計画に掲げた目標および計画を、より具体的かつ実効性のあるものとするため、達成指標としての「アクションプラン」を策定・更新している。これらは、本学の建学の精神および基本理念に基づく使命・目的に則り、教育・研究の目的達成に向けた継続的な目標および計画として位置づけられるものであり、大学全体はもとより、各学部・学科、事務局各部署、さらには全教職員一人ひとりが共有・意識すべき指針である。そのため、学内外における中長期計画およびアクションプランの周知を継続的に推進している。

第2期中長期計画およびアクションプランの策定から5年が経過した2025年度においても、本学の教育研究目的の達成に向け、各学部・学科・研究科、各委員会および事務局各部署が、アクションプランの実現に向けた取組を行った。各アクションプランを所管する事務局各部署には、2026年3月末時点での進捗状況について点検・評価を依頼し、その結果を取りまとめている。これらの進捗状況および評価結果は、2026年度第1回自己点検・評価委員会に上程され、報告される予定となっている。

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

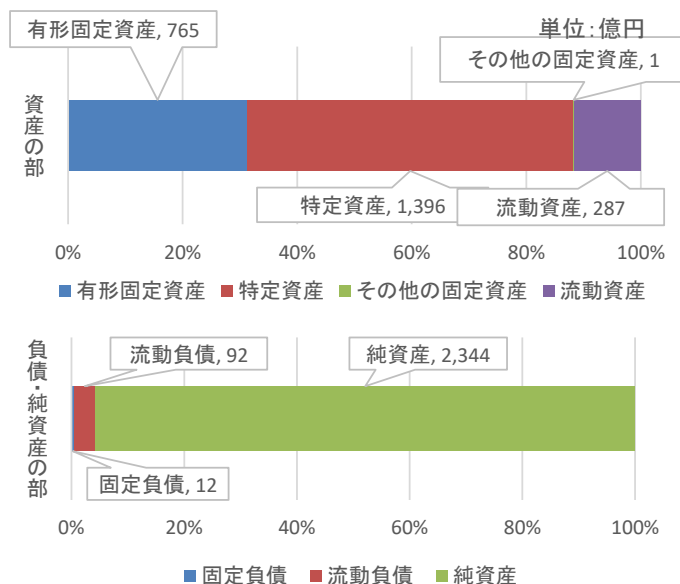
①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

資産の部合計は、前年度より151億円増加し、2,448億円となった。主な要因として、有形固定資産が118億円増加している。

負債の部合計は、前年度より53億円増加し、1,044億円となった。主な要因として、未払金が増加している。

純資産の部合計は、前年度より98億円増加し、2,344億円となった。主な要因として、第1号基本金に88億円を、第3号基本金に30億円を組み入れている。



(単位:千円)

項目	2023年度	2024年度	2025年度
固定資産	200,833,501	205,433,187	216,134,814
流動資産	20,937,601	24,229,126	28,657,901
資産の部合計	221,771,102	229,662,313	244,792,715
固定負債	1,078,360	1,112,088	1,207,033
流動負債	3,564,747	3,965,842	9,208,659
負債の部合計	4,643,107	5,077,930	10,415,692
基本金	225,802,695	231,901,473	239,850,281
繰越収支差額	△ 8,674,699	△ 7,317,091	△ 5,473,257
純資産の部合計	217,127,995	224,584,383	234,377,023
負債及び純資産の部合計	221,771,102	229,662,313	244,792,715

イ) 財務比率の経年比較

比率名	算式	2023年度	2024年度	2025年度
運用資産余裕比率	運用資産－外部負債	1232.2%	1120.6%	1104.4%
	経常支出			
流動比率	流動資産	587.4%	610.9%	311.2%
	流動負債			
総負債比率	総負債	2.1%	2.2%	4.3%
	総資産			
前受金保有率	現金預金	477.2%	697.2%	871.6%
	前受金			

基本金比率	基本金	99.9%	100.0%	98.1%
	基本金要組入額			
積立率	運用資産	96.2%	99.1%	100.1%
	要積立額			

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

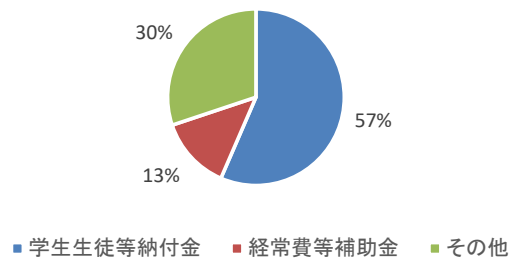
教育活動収支差額は、経常費等補助金収入の増加や教育研究経費の減少などの要因で、前年度より11億円増加している。

教育活動外収支差額は、受取利息・配当金の増加などの要因で、前年度より24億円増加している。

特別収支差額は、資産売却差額の減少などの要因で、前年度より12億円減少している。

これらに加え、今年度は基本金として79億円を組入れたことにより、当年度収支差額は18億円となり、翌年度繰越収支差額は△55億円となっている。

事業活動収入の内訳



(単位：千円)

科目		2023年度	2024年度	2025年度
教育活動収支	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	15,438,020	14,762,081	14,406,802
	手数料	344,734	352,254	363,959
	寄付金	26,296	39,964	34,612
	経常費等補助金	1,824,041	1,739,928	3,295,777
	付随事業収入	172,376	112,013	119,172
	雑収入	210,216	228,625	215,774
	教育活動収入計	18,015,683	17,234,866	18,436,097
	事業活動支出の部			
	人件費	6,430,293	6,913,841	7,133,732
	教育研究経費	4,921,746	5,910,576	5,697,624
	管理経費	1,195,197	1,694,971	1,760,950
	徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	12,547,236	14,519,388	14,592,306	
教育活動収支差額	5,468,448	2,715,478	3,843,791	
教育活動外収支	事業活動収入の部			
	受取利息・配当金	3,407,485	4,111,280	6,287,302
	その他の教育活動外収入	127,897	46,551	179,117
	教育活動外収入計	3,535,382	4,157,832	6,466,419
	事業活動支出の部			
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	67,549	6,346
教育活動外支出計	0	67,549	6,346	
教育活動外収支差額	3,535,382	4,090,283	6,460,073	
経常収支差額	9,003,829	6,805,761	10,303,864	

特別収支	事業活動収入の部				
	資産売却差額	504,087	1,411,306	472,132	
	その他の特別収入	86,167	82,959	124,597	
	特別収入計	590,254	1,494,265	596,729	
	事業活動支出の部				
	資産処分差額	504,404	835,802	255,874	
	その他の特別支出	4,043	7,836	852,078	
	特別支出計	508,447	843,639	1,107,952	
	特別収支差額	81,807	650,627	△ 511,223	
	基本金組入前当年度収支差額	9,085,636	7,456,388	9,792,641	
基本金組入額合計	△ 17,399,748	△ 6,098,779	△ 7,948,807		
当年度収支差額	△ 8,314,111	1,357,609	1,843,833		
前年度繰越収支差額	△ 360,588	△ 8,674,699	△ 7,317,091		
基本金取崩額	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	△ 8,674,699	△ 7,317,091	△ 5,473,257		
(参考)					
事業活動収入計	22,141,319	22,886,963	25,499,245		
事業活動支出計	13,055,683	15,430,576	15,706,604		

イ) 財務比率の経年比較

比率名	算式	2023年度	2024年度	2025年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	29.8%	32.3%	28.6%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	22.8%	27.6%	22.9%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	5.5%	7.9%	7.1%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	41.0%	32.6%	38.4%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	71.6%	69.0%	57.9%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	41.8%	31.8%	41.4%

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部では、受取利息・配当金収入と補助金収入等が増加している。

支出の部では、施設関係支出と設備関係支出等が増加している。

資金収支計算書の顔末としての翌年度繰越支払資金は、前年度より49億円増加し、227億円となった。

(単位：千円)

収入の部	2023年度	2024年度	2025年度
学生生徒等納付金収入	15,438,020	14,762,081	14,406,802
手数料収入	344,734	352,254	363,959
寄付金収入	16,300	31,462	23,055
補助金収入	1,904,668	1,810,305	3,410,644
資産売却収入	23,108,028	19,166,468	13,713,821
付随事業・収益事業収入	172,376	112,013	119,172
受取利息・配当金収入	3,407,485	4,111,280	6,287,302
雑収入	336,621	277,803	396,025
借入金等収入	0	0	0

前受金収入	2,495,335	2,559,751	2,609,353
その他の収入	13,421,593	9,473,567	9,421,820
資金収入調整勘定	△ 3,284,700	△ 2,726,485	△ 4,022,521
前年度繰越支払資金	15,036,091	11,908,558	17,845,845
収入の部合計	72,396,551	61,839,059	64,575,278

支出の部	2023年度	2024年度	2025年度
人件費支出	6,325,385	6,880,113	6,998,906
教育研究経費支出	3,688,306	4,661,826	4,471,089
管理経費支出	1,016,796	1,332,373	1,332,974
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	11,395,378	951,276	12,953,486
設備関係支出	376,871	232,981	753,285
資産運用支出	35,404,382	25,657,943	16,333,973
その他の支出	3,146,208	5,488,312	4,472,042
資金支出調整勘定	△ 865,333	△ 1,211,611	△ 5,483,511
翌年度繰越支払資金	11,908,558	17,845,845	22,743,035
支出の部合計	72,396,551	61,839,059	64,575,278

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

教育活動による資金収支は、学生生徒等納付金収入の減少や人件費の増加などの要因で、前年度より7億円減少している。

施設整備等活動による資金収支は、施設関係支出の増加などの要因で、前年度より9億円減少している。

その他の活動による資金収支は、受取利息・配当金収入の増加などの要因で、前年度より6億円増加している。

(単位：千円)

科目	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動による資金収支			
教育活動資金収入計	18,003,602	17,224,837	18,422,048
教育活動資金支出計	11,026,504	12,803,000	12,787,441
差引	6,977,098	4,421,837	5,634,607
調整勘定等	△ 413,441	435,906	△ 1,508,911
教育活動資金収支差額	6,563,656	4,857,743	4,125,696
施設整備等活動による資金収支			
施設整備等活動資金収入計	4,319,199	4,683,253	4,528,099
施設整備等活動資金支出計	20,572,249	8,666,357	14,012,184
差引	△ 16,253,050	△ 3,983,104	△ 9,484,085
調整勘定等	△ 284,676	△ 34,543	4,574,142
施設整備等活動資金収支差額	△ 16,537,725	△ 4,017,647	△ 4,909,943
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 9,974,069	840,096	△ 784,247
その他の活動による資金収支			
その他の活動資金収入計	35,670,845	27,970,062	24,962,004
その他の活動資金支出計	28,824,085	22,873,515	19,276,489
差引	6,846,760	5,096,547	5,685,514
調整勘定等	△ 224	644	△ 4,077
その他の活動資金収支差額	6,846,536	5,097,191	5,681,437

支払資金の増減額（小計＋ その他の活動資金収支差額）	△ 3,127,533	5,937,287	4,897,190
前年度繰越支払資金	15,036,091	11,908,558	17,845,845
翌年度繰越支払資金	11,908,558	17,845,845	22,743,035

ウ) 財務比率の経年比較

比率名	算式	2023年度	2024年度	2025年度
教育活動資金収支 差額比率	教育活動資金収支差額 教育活動資金収入計	36.5%	28.2%	22.4%

(2) その他

① 寄付金の状況

寄付金の種類	金額	摘要
受配者指定寄付金	9,000 千円	
その他の特別寄付金	14,055 千円	
一般寄付金	0 千円	
現物寄付	17,661 千円	

② 補助金の状況

補助金の種類	金額	摘要
私立大学等経常費補助金	1,261,147 千円	
授業料等減免費交付金	1,272,364 千円	
私立学校施設設備費補助金	114,867 千円	
その他の補助金	762,267 千円	

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

収支面では、学生生徒等納付金収入が安定的に推移しており、経常収支差額は黒字を維持している。また財務面では、基本金に見合う十分な運用資産を有しており、大学の教育研究目的を達成するために必要な財務基盤を有している。

将来的には少子化が進む中で学生確保が課題となるため、引き続き経営の健全性を維持するよう努めていく。

4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

(1)関係する決議の概要

2025年3月25日、理事会において、理事の職務執行が法令及び「学校法人帝京平成大学寄附行為」に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、「学校法人帝京平成大学内部統制システム整備の基本方針」を決定した。

(2)体制整備及び運用状況の概要

「学校法人帝京平成大学内部統制システム整備の基本方針」に従い、1.経営に関する管理体制、2.リスク管理に関する体制、3.コンプライアンスに関する管理体制、4.監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）に関する体制整備を行った。特に、2025年度は「学校法人帝京平成大学監事監査規程」および「学校法人帝京平成大学内部監査規程」を制定した。内部監査については、内部監査部門を発足させ、規程に則り、年次計画および実施計画を策定し、内部監査（業務監査（部門別監査・テーマ別監査）、公的研究費内部監査）を実施した。「帝京平成大学自己点検評価委員会管理運営・評価部会」にて、理事会・評議員会の実施状況および内部監査の実施状況等について自己点検を行い、内部統制の運用状況について問題がないことを確認した。